

NPO
FUKUOKA
DESIGN LEAGUE
2018
ACTIVITIES
REPORT

NPO FUKUOKA DESIGN LEAGUE 2018 ACTIVITIES REPORT

NPO FUKUOKA デザインリーグ2018 活動報告

NPO FUKUOKA 디자인리 2018 활동 보고

特定非盈利活动団体 福岡设计联盟 2018 活动报告

NPO FUKUOKA 디자인リーグとは

FUKUOKA 디자인リーグは福岡市のデザインセンター構想をベースに、1996年に任意団体として発足しました。その後福岡市経済産業局内に事務局をおき、「デザインによる経済振興」を主な目的としてさまざまな活動を行ってきましたが、「デザインを経済のためだけでなく、社会の成熟のために活用する」という大きな使命のもと、2008年に特定非営利活動法人として再スタートしました。世界はいま環境問題や高齢化問題など、さまざまな課題を抱えています。デザインは、いまこそその力を企業や経済のためだけでなく、社会のため、市民のために活用しなければなりません。FUKUOKA 디자인リーグでは、ひとりのデザイナーでは対応できない社会の大きな課題に対して、あらゆるデザイン領域を統合したトータルな力で、「市民が豊かに暮らせる社会(デザイン都市)」の実現を目指します。

What is NPO FUKUOKA Design League?

Based on Fukuoka City's Design Center Project, the FUKUOKA Design League (FDL) was established in 1996 as a private organization. Subsequently, with its secretariat located at the Economic Promotion Bureau of the Fukuoka City, the organization developed a broad range of activities, mainly aiming at economic growth through design. In 2008, however, the FDL was reorganized as a specific non-profit organization in order to achieve the even bigger goal of utilizing design not only for development of the economy but also for the promotion of a mature society. The world today faces a wide variety of problems, including problems related to the environment and aged society problem. Now is the time to use design not only for companies and the economy, but also for the entire society and the people living in it. Combining all the efforts of those committed to design, the FUKUOKA Design League strives to tackle social challenges too big for one designer alone to solve, and to realize a society in which people can live a comfortable life (design city).

NPO FUKUOKA 디자인리그란

FUKUOKA 디자인 리그는 후쿠오카시의 디자인센터 구상을 바탕으로 1996년에 임의단체로 발족하였습니다. 당시에는 후쿠오카시 경제산업국 내에 사무국을 두고 "디자인으로 이뤄내는 경제진흥"이라는 목적과 함께 다양한 활동을 계속해 왔습니다만, 이후 "디자인을 경제적인 측면뿐만이 아니라 더욱 성숙한 사회를 만들기 위해 활용하자"는 대의적인 사명 아래, 2008 년 특정 비영리 활동 법인으로 다시 시작하게 되었습니다.

세계는 지금 환경문제와 고령화 문제 등의 다양한 과제를 안고 있습니다. 따라서 지금이야말로 디자인의 힘을 기업과 경제, 그리고 사회와 시민을 위해 활용해야 한다고 생각합니다. FUKUOKA 디자인리그는 디자이너 개개인으로는 하기 힘든, 사회적인 과제에 대응해 나가기 위해 모든 디자인 영역을 통합한 종합적인 힘으로 '시민이 풍요롭게 살 수 있는 사회(디자인 도시)' 실현을 목표로 하고 있습니다.

特定非盈利活动団体 福岡设计联盟 究竟是？

福岡设计联盟(FUKUOKA Design League)成立于1996年,是以创立“福岡的设计中心”这个构想为蓝本而成立的自由团体。联盟成立后在福岡市经济产业局内设立单独事務局,秉着“用设计的力量振兴经济”为目的开展了各种活动。2008年开始,以新使命“设计不应是仅为经济服务,更应为了促进社会的成熟而活用”为目标,福岡设计联盟作为特定非盈利活动团体再启动。现今世界各地都有着众多共通的社会课题,比如环境课题,老龄化社会课题。正是在这样的社会背景下,福岡设计联盟认为设计在为企业和经济发展服务的同时,设计的力量更应该活用于社会,活用于福岡市市民。以设计师个人力量无法解决的复杂社会问题,福岡设计联盟将会结合来自各个设计领域的综合设计团队来进行解决。为实现“市民能拥有美好丰富生活的社会(设计都市)”的目标,福岡设计联盟今后也将不断努力。

CONTENTS

パブリックプロジェクト

[自主事業]

Public Projects

퍼블릭 프로젝트

公共项目

01 第11回 ユニバーサルキャンプ in 九州 2018

Universal Camp in Kyushu 2018

유니버설 캠프 in 큐슈

通用露營in九州 2018

強風にも負けず!

I will not lose in a strong wind.

강풍이 불어도

不负强风

02 디자인카페

Design Café

디자인카페

设计咖啡

知的好奇心の探求

intellectual curiosity

지적호기심의 탐구

探求求知的好奇心

03 福岡景観ガイドツアー

Landscape Guided Tour of Fukuoka city

후쿠오카 경관가이드 투어

福岡景观导游

福岡の古代遺跡を巡るツアー

Tour of ancient ruins in Fukuoka

후쿠오카의 고대유적을 둘러보는 투어

福岡の古遗迹探访游

04 ロービジョンブラインドケアプロジェクト/ ユニバーサルカレンダー出版

Low vision blind care project/Universal Calendar

낮은 시력맹목보살핌 프로젝트/유니버설 캘린더

低的视力盲帮助项目/通用设计日历出版

変わらないもの、変えないこと。

The one which doesn't change and the thing which isn't changed.

바뀌지 않는 것, 바꿀 수 없는 것

不会变的物, 不会改的事

育成プロジェクト

Educational Projects

육성 프로젝트

培养项目

05 디자인インターンシップ 2018

Design Internship 2018

디자인 인턴쉽

设计实习

現場で学ぼう! 学生たちの夏の挑戦

Learn in the field! Summer challenge of Students.

현장에서 배우자! 학생들의 여름 도전

在现场学习! 学生们夏天里的挑战

サポートプロジェクト

[受託事業]

Support Projects (Commissioned)

서포트 프로젝트

支援项目

06 九州経済産業局 平成30年度 地域中小企業のためのデザイン活用促進事業

Program to promote the use of designs for local SMEs

2018년도 지역중소기업을 위한 디자인 활용촉진사업

2018年度针对地区中小企业的设计应用促进项目

目的は「デザイン認識の向上」

The purpose, "improvement of design recognition"

목적은 「디자인 인식의 향상」

目的「设计认识的提高」

01 第11回 ユニバーサルキャンプ in 九州 2018

◎日時／10月27日[土] ◎会場／海の中道海浜公園デイキャンプ場

強風にも負けず！

1回目の発足よりずっと『ダイバーシティ (Diversity=多様性)の視点に立ち参加者の一人ひとりが尊厳を持つ対等な関係であることを理解する』という思いを胸に障がい者理解を中心に活動を行なっておりますが、11周年目を執り行うにあたり『ダイバーシティ (Diversity=多様性)=障がい者』というだけでなく『児童』『外国人』など『現在の九州においての身近な多様性』についてもプログラムを見直し、より多くの皆様と共に『多様性』について考えます。

【内容】

- 手作りダンボール窯によるピザづくり
 - チーム分けフラッグづくり
 - パラリンピック正式競技ボッチャ大会
 - 最新車椅子試乗体験会
- ↓最新車椅子情報↓

<https://whill.jp/model-c>

- スナオラボ提供

『箸づくりキッド箸作りキットPENCIL?』

https://www.coocan.com/netshop/item/normal/item.php?item_id=0906

- はかたび提供

『糸繰機からつくる博多織タッセル』

- FUKUOKAデザインリーグ名物！

会費度外視BBQ大会

牛の塊/マッシュマロ焼き/竹ごはん/アヒージョ/具沢山豚汁などなど。

- 大瀧由美子氏

『ゆみりん夕焼け手話コンサート』

【参加者】

大人：19名(車椅子1名、聴覚障害1名含む)、学生1名、こども1名

●担当者感想

晴天ですが、強風でした。ダンボールで窯からつくるピザ作り体験にはじまり、盛りだくさんのイベントを詰め込みました。毎年様々なことを参加者全員で体験いたしますが、今回も中止も視野に入つつ蓋を開ければ充実したキャンプを行うことができました。ご参加で協力していただいた皆様ありがとうございました。<ひろわたり ちはる>



02 デザインカフェ

◎日時／6月14日[水]、11月23日[水]、12月18日[水] ◎会場／九州大学大橋サテライト「ルネット」

◎講師／定村俊満氏、若杉浩一氏、照井善明氏

知的好奇心の探求

今年度のデザインカフェは3回。Vol.30は定村俊満氏による「日本のピクトグラムのお話/幸せ×デザイン-Stock&Flow-」。Vol.31は若杉浩一氏による「つなぐデザイン-杉と地域と社会とデザインと」。そして番外編として照井善明氏による「イスラマバードからタクラマカン沙漠の街コルラ

まで3,300キロ」を開催しました。第30回では72名の方が集まる大盛況。Facebookも使った本格的な広報など、新しい試みも始めた結果デザイナー以外の方にも来て頂けるようになり、今後ますます楽しみますプロジェクトになりました。

●担当者感想

おかげさまで集客も良く、椅子が足りない!という嬉しい悲鳴が上がるようになりました。これからも魅力的な内容を用意して、デザイン関係の方にも、それ以外の方にも楽しんでいただけるように。継続的な開催で、他の事業に参加してくれる人の人数も増やせばいいなと考えています。 <犬山 祥子>



03 福岡景観ガイドツアー

◎日時／11月10日[土] 10:00～15:00 ◎会場／西区飯盛山エリア

福岡の古代遺跡を巡るツアー

区の飯盛山の周辺を歩きました。具体的には、三瀬街道の宿場町として栄えた次郎丸の白壁の街並み、日本最古の王国ではないかと言われている吉武高木跡を整備したやよいの風公園、流鏝馬が残る飯

盛神社、かつて守護代として赴任した細川氏がいた都地城(ついちじょう)跡、大日如来像のあるお堂、羽根戸古墳群跡を見て回りました。

●担当者感想

日本最古の王国跡や一豪農ではかたづけられない飯盛神社など、強力な権力があつた事を感じさせるものを見ました。あらためて福岡の歴史の底深さを考えさせられた一日でした。 <水野 宏>



04 ロービジョンブラインドケアプロジェクト／ユニバーサルカレンダー出版

◎メンバー／廣瀬正人、計盛 政利

変わらないもの、変えないこと。

●ロービジョンブラインドケアプロジェクト
プロジェクトリーダーの廣瀬は、55歳で自ら網膜症で極端な視力障害で視野狭窄となった時、視覚障害者はアートとは無縁なのか？この疑問から仲間とブラインド・ロービジョンアートの研究をスタートすることになりました。研究の成果として、『視

覚障害者とアートに関する考察（全盲・弱視のアート鑑賞）』をプロジェクトリーダーの廣瀬正人がまとめ、執筆しました。

●UDカレンダー

2019年も視力の弱い方にも見やすい白黒反転カレンダー&ダイアリーを作成。



●担当者感想

カレンダーは一度購入された方からのリピート購入が続くなど少しずつ成果が現れてきていますが、これからの展開が課題だとも感じています。＜計盛 政利＞

06 九州経済産業局 平成30年度地域中小企業のためのデザイン活用促進事業

◎期間／2018年4月～2019年3月

目的は「デザイン認識の向上」

ここ数年、関係が深まっている九州経済産業局からの受託事業として実施しました。平成30年5月、経済産業省・特許庁は15年ぶりとなるデザインを主題とした政策提言「デザイン経営」宣言を公表しました。「デザイン経営」とは、「デザイン」を企業価値向上のための重要な経営資源として活用する経営を指します。

「デザイン」とは造形の美のみを指すのではなく、企業が大切にしている価値、そ

れを実現しようとする意志を表現する営みや考え方自体のことを指します。それは、個々の製品の外見を好感度の高いものにするだけではなく、ブランド価値を生み、更には、人々が気づかないニーズを掘り起こし事業化する営みを通じ、イノベーションを実現する力ともなります。

供給側の思い込みを排除し、観察する。気づいた潜在的ニーズを、企業の価値・意志に照らし合わせ、「誰のために何を行い

たいか」という原点に立ち返ることで、既存事業に縛られない構想が生まれ、企業業績を上げる一助となるのでは無いでしょうか。

以上を踏まえ、本事業では、地域中小企業を主な対象として、デザイン認識の向上を目的としたセミナーを開催するとともに、九州管内のデザイン人材とのマッチングを目指し、デザイン活用事例集「九州デザインファイル」を制作いたしました。

(1) セミナー実施について

「企業をデザインするプロジェクト」と題し、2回のセミナーを実施しました。各回ごとのテーマ設定とそれを担う的確な講師

の選定、および交渉を行い、FDL内でのプランをもとに九州経済産業局と協議し、より良いセミナーになるよう細心の注意

で運営にあたりました。以下にセミナー詳細を記します。

第1回セミナー

●テーマ

「経営とデザインのあり方をさぐるセミナー」

●セミナーコンセプト

デザインの本質に触れることで「デザイン経営」宣言への理解が生まれる。

●講師選定基準

1. デザイン経営宣言に精通していること。
2. デザイナーとしてのキャリアが十分なこと。
3. 経営者としてのキャリアが十分なこと。
4. 広義な意味においてのデザインをわかりやすく提示できる

こと。

5. 人が生きていくうえで大事なことを多くの共感が得られるように話せること。

●講演テーマ、および講師

◎テーマ

デザイン政策とデザイン経営宣言

◎講師

菊地 拓哉(きくちたくや)氏 経済産業省クールジャパン政策課
デザイン政策室 課長補佐・室長補佐

05 デザインインターンシップ 2018

◎インターンシップ期間／8月～9月

現場で学ぼう！学生たちの夏の挑戦

2003年度より、デザイナーを志す大学・専門学校を対象に、デザインの現場を体験するための「デザインインターンシップマッチング事業」を行っています。

参加企業：4社

参加学生数：17名

●実習レポートより一部抜粋(受入先／在校名)

・社内はとても和やかで心地いい場所で

した。4日間という短い期間でしたが、至る所に連れてもらって、いろんなことを体験させてもらいました。現場見学や作業場を拝見させていただいて、仕事の流れを細かく教えられました。知っていることや知らなかったこともたくさんあってとても勉強になりました。何かを一から作り出すという仕事を将来の自分のやりたい仕

事、お客さんの要望を聞き満足できるデザインを作り出したいと思います。インターンシップに参加できて本当に良かったと思います。これらの体験を生かして、就職活動や学校生活に生かしたいと思います。

(ツカサ創研株式会社／麻生建築&デザイン専門学校 ものづくり学科 1年)

◎内容

デザイン経営宣言の全容説明と行政側から見たデザイン活用の効用示唆を提示いただいた。

●基調講演 1

◎テーマ

デザインは経営の役に立つのか？

◎講師

永井 一史(ながいかずふみ)氏

HAKUHODO DESIGN(代表取締役社長)

クリエイティブディレクター／アートディレクター

◎内容

「デザイン経営宣言」を検討した「産業競争力とデザインを考える研究会」委員であり、(株)HAKUHODO DESIGNの代表。加えて日本を代表するデザイナーでもある永井氏。まさにデザインを携えて企業経営を行って居る立場から、デザインの経営への活用について紐解いて頂いた。デザイン経営宣言の当事者ならではの視点による解説や、自身の仕事の例を提示しながらデザインと経営の関係解説に加えて、そもそもデザインとは？という大義の講義も。なかでも、アーツアンドクラフツ運動、バウハウスといった、過去から脈々と受け継がれている経営とデザインとの関わり、企業がデザインを取り入れ、ブランディング構築に至るまでの過程などたいへん興味深いものがあった。

●基調講演 2

◎テーマ

デザインに役立てる哲学的思想 ～本質観取とは何か？～

◎講師

苫野 一徳(とまのいっとく)氏 熊本大学教育学部准教授



06 九州経済産業局 平成30年度 地域中小企業のためのデザイン活用促進事業

◎内容

哲学界の若きエースである苦野氏。彼の説く理論は、物事の本質を洞察し、いかに幸せに生きるかという命題と直結している。デザインを経営に活用する際、顧客、従業員をはじめとした企業を取り巻く人々をどうすれば幸せにできるか。哲学者という立場から、「デザイン」をテーマに話していただいたが、予想通り非常に多くの共通項があった。特に「本質洞察」という哲学の奥義は、デザインの本質と共通するものであり、また、経営に限らずあらゆる場面で有効な事であることが参加者に共通理解として伝わったのではないかと感じる次第である。

●パネルディスカッション

◎テーマ

デザインの本質から見てくる企業におけるデザイン活用

◎ファシリテータ

武永 茂久(たけながしげひさ)

NPO法人FUKUOKAデザインリーグ 理事長

◎パネラー

永井 一史氏、苦野 一徳氏、菊地 拓哉氏

◎内容

来場者からもらった質問や討議ワードを以下の4カテゴリーに分けてステージ上に一堂に開示。

「企業・文化・経営」「創造・発想・未来」「人生・幸福・自由」「？」

任意にワードを拾いながらディスカッションを進行。パネラー各氏、全く違う立場ながら大きな意味での「デザイン」についてはかなり共有できる話が展開され、参加者の共感を得ることができた。

●日時／2018年10月11日[木]

12:30(開場) 13:00(開演)～17:00(終了)

●会場／福岡アジア美術館あじびホール

福岡市博多区下川端町3-1リバレインセンタービル8F

●会費／無料

■参加者=100名／企業54名・デザイナー26名・自治体等支援機関15名 等

第2回セミナー

●テーマ

[経営とデザインの未来を拓くセミナー]

●セミナーコンセプト

企業とデザイナーのベストマッチングは如何にしておこるのか。経営資源となるデザイン開発の事例紹介も絡めて考える。

本セミナーでは、「デザイン経営」を実践するために、デザイナーと企業が、どの様に会い、関わっていくべきか、そのヒントを事例を交えて紹介し、ベストマッチングのあり方をそれぞれに考察、実際により良いマッチングの糸口を掴んでもらうことを期待するものである。

●講師選定基準

- 1.デザイナーと企業のマッチングに精通していること。
- 2.好マッチングの体験者であること。

●基調講演 1

◎テーマ

イノベティブな関係性をつくる

～大阪・メビック扇町の活動を通して～

◎講師

堂野 智史(どうの さとし)氏

クリエイティブネットワークセンター大阪 Mebic扇町

所長・チーフコーディネーター

◎内容

大阪市がクリエイティブ産業支援のために設置したメビック扇町。その効果は多岐にわたるものがあるが、特にデザイナーと企業をつなぐ手腕は以前より高い評価がある。毎年生まれる数多くの成功事例。フェースtoフェースから自然発生するフィールドづくりの妙。メビック流パートナー選びの極意を提示していただき、そのなかからベストマッチングのヒントが見えてきた講演であった。

●基調講演 2

◎テーマ

1万人の社外人材と共創するオンライン商品開発手法

Wemakeとは

◎講師

大川 浩基(おおかわ ひろき)氏

株式会社A(エイス) 代表取締役

◎内容

基調講演1の堂野氏とは対局で、ほぼ顔を会わせることなくネット上のみでマッチングが行われる画期的な企業とデザイナーの橋渡しシステムWemake。デザインコンペとは一線を画し、基本ネット上でのやり取りで1万人を超える社外人材と企業を結びつけ、効率的により優れた商品開発ができる。働き方の多様が求め

られる時代に即したと思えるマッチングのあり方をご提示頂いた。それに至る失敗例の数々も開示いただき、参加者の共感を得る内容であった。

●パネルディスカッション

◎テーマ

企業×デザイナー、その効能とパートナー選びについて

◎ファシリテータ

江副 直樹(えぞえ なおき)

ブンボ株式会社 代表取締役社長／プロデューサー

◎パネラー

堂野 智史氏、大川 浩基氏

◎内容

企業とデザイナーを結びつける手法として、正反対に思える堂野氏と大川氏。それぞれの講演を受けて感じたことの提示をはじめ、手法そのものよりその奥にあるマッチングにおいて最も大事にしなければいけないものの考察を深めるディスカッションとなった。クリエイタプレゼン者や来場者からも意見、質問を順次受けながらの展開。多くの気づきがある討議であったと思える。

●日時／2019年2月15日[金]

12:30(開場) 13:00(開演)～17:00(終了)

●会場／福岡アジア美術館あじびホール

福岡市博多区下川端町3-1リバレインセンタービル8F

●会費／無料

■参加者=92名／企業31名・デザイナー32名・
自治体等支援機関29名 等



堂野 智史氏



大川 浩基氏



江副 直樹氏



06 九州経済産業局 平成30年度 地域中小企業のためのデザイン活用促進事業

(2) デザイン活用事例集の制作について

2回目のセミナー実施に合わせて、企業とデザイナーのコラボ事例集を制作いたしました。「九州デザインファイル」と銘打った小冊子は、デザインジャンルを7つに分け、デザインを取り入れたことにより、経営成果（ブランド構築等）がうまれた事例を中心に九州全域から選定したものです。

狙いとしては、広義においてのデザイン本質の認知および、中小企業にデザイン経営を浸透させ、デザイナーと中小企業のマッチングに向けた機運醸成を行うこと。そのために九州においての好マッチング事例を集め、わかりやすく提示することでケースバイケースの具体的なデザイン活用促進のきっかけになることを目指しました。40事例の提示だけでなく、なぜ、デザインが経営に利するのか。そもそもデザインが意味するものはなんなのか。どのようにデザイナーと接すればいいのか。などもデザイン考として記した内容で、九州経済産業局のみならず、デザイン経営の促進事例として経済産業省の評価も大変高く、2度増刷され全国に配られております。

●ジャンル別事例掲載分布

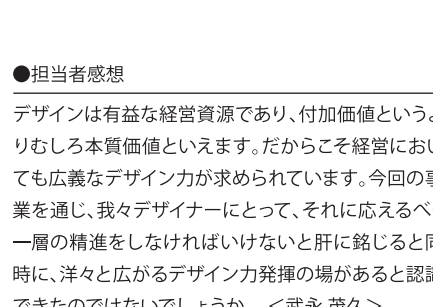
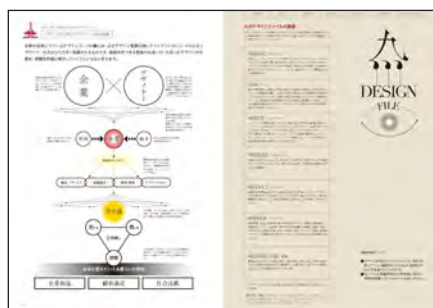
グラフィック(19名) サイン(3名)
ウェブサイト(4名) プロデュース(5名)
プロダクト(3名) インテリア(4名)
建築(2名)

●地域別掲載デザイナー分布

福岡県(23名) 熊本県(2名)
長崎県(3名) 大分県(4名)
宮崎県(3名) 佐賀県(1名)
鹿児島県(4名)

●地域別掲載企業分布

福岡県(17社) 熊本県(3社)
長崎県(5社) 大分県(4社)
宮崎県(2社) 佐賀県(1社)
鹿児島県(4社) 山口県(1社)
埼玉県(1社) 宮城県(1社) 愛知県(1社)



●担当者感想

デザインは有益な経営資源であり、付加価値というよりむしろ本質価値といえます。だからこそ経営においても広義なデザイン力が求められています。今回の事業を通じ、我々デザイナーにとって、それに応えるべく一層の精進をしなければいけないと肝に銘じると同時に、洋々と広がるデザイン力発揮の場があると認識できたのではないのでしょうか。 <武永 茂久>

NPO FUKUOKA DESIGN LEAGUE 2018 ACTIVITIES REPORT

あとがき

平成30年度事業を終えて一例年に比べて事業数は少なめでしたが、その分各事業の精度は高いものとなりました。まず、自主事業の一つである「デザインカフェ」。定村前理事長の登壇においては記録的多数の集客がありました。また、受託事業においても「地域中小企業のためのデザイン活用促進事業」が九州産業経済局のみならず経済産業省からも高い評価を得るなど、コンテンツや組み立て方次第で魅力ある訴求が出来る事があらためて確認できたのではないのでしょうか。ユニバーサルキャンプの新しい試みも含め、他の事業の今後に大いに期待が持てると感じております。その一方で長年主力事業であった「デザインスクールキャラバン」の一時見送りや収支決算、事務所移転など重要な課題も明らかに。本当に豊かと言える社会の実現に向けてデザインができることは何なのか。社会貢献と経済振興の活動バランスを考慮した運営がさらに求められています。そのためにも会員はもちろん関係各所の方々と今後も連携を取り合っていきたいと思っております。引き続きのご尽力ご協力をお願いいたします。

NPO FUKUOKAデザインリーグ理事長 武永 茂久

NPO FUKUOKAデザインリーグ会員 (2018年3月31日現在)

■団体正会員

(公社)日本建築家協会九州支部福岡会(JIA)
(公社)日本サインデザイン協会九州地区(SDA)
(一社)日本商環境デザイン協会九州支部(JCD)
(一社)日本空間デザイン協会九州支部(DSA)
(一社)九州アートディレクターズクラブ(K-ADC)
(公社)日本インテリアデザイナー協会(JID)

福岡県産業デザイン協議会

麻生建築&デザイン専門学校

九州デザイナー学院

日本デザイナー学院

福岡デザイン専門学校

株式会社環境デザイン機構

■個人正会員 (50音順)

阿武 寿志	神田橋 幸司	萩原 武治
池浦 和也	金 戊丁	橋爪 大輔
石井 由美子	坂元 成人	廣瀬 正人
犬山 祥子	嶋本 和夫	広渡 千春
内田 正宏	正田 美加	松山 真介
大野 郁治	武永 茂久	馬渡 秀公
鬼塚 淳子	照井 善明	椋本 敏行
垣田 健太郎	長尾 朋貴	森重 正治
計盛 政利	中島 梨沙	吉田 寛史
加瀬 仁人	永野 研太	
川崎 泰秀	長峰 栄子	

■団体賛助会員

株式会社正興電機製作所

株式会社ステッカートレーダージャパン

社会福祉法人未来駅

福岡インテリアコーディネーター協会(FICA)

■個人賛助会員 (50音順)

奥 勝浩
北川 千枝
北村 里美
田中 亮二
樋口 敬

■名誉会員

水口 敬司(平成20～22年度理事長)
渡辺 顯好(平成23年度～27年度理事長)
定村 俊満(平成28年度～29年度理事長)

■役員

理事長 武永 茂久	理事 伊場 芳朗
副理事長 中牟田 麻弥	理事 深町 俊彦
副理事長 長尾 朋貴	理事 栗田 融
専務理事 照井 善明	理事 垣田 健太郎
理事 森重 正治	理事 広渡 千春
理事 大庭 香代子	理事 池浦 和也
理事 水野 宏	理事 犬山 祥子
理事 板野 仁志	監事 川崎 泰秀
理事 熊野 学	監事 正田 美加
理事 吉永 文治	

特定非営利活動法人 FUKUOKA デザインリーグ
2017 活動報告書

〒815-0033 福岡市南区大橋 1-3-27 九州大学大橋サテライト内

TEL : 092-551-0825 FAX : 092-405-0825

Email fdljinu@f-design.gr.jp

URL <http://www.f-design.gr.jp/>

編集／岡 真由子 翻訳／金 戊丁 張 彦芳 デザイン／垣田 健太郎

The background of the entire page is a complex, organic texture. It features large, irregular, light-colored shapes that resemble marbled paper or stone, set against a darker, more uniform background. These light shapes have soft, flowing edges, giving the overall effect a sense of movement and depth. The colors are primarily off-white, light grey, and pale yellow, with some darker grey and brown tones in the background and within the organic shapes.

FUKUOKA
DESIGN LEAGUE